

阿南ふるさと探訪

その60

阿南市文化財保護審議会会長

湯浅良幸

室町幕府・平島公方(二四)

公方館の位置と規模

初代平島公方、足利義冬は天文三(一五三四)年、天龍寺領の平島荘へ入り、赤池の西光寺を住居とした。永禄年間(一五五八〜七〇)古津の平島砦を修築してここを居館とした。現在の阿波公方民俗資料館周辺である。文化二(一八〇五)年、阿波国を退去するまで約二百七十年間平島に住んだ。

残念ながら正確な公方館の規模、構造は分かっていない。城や砦のように軍事的施設の場合、防御上、建物の構造を公にしない場合が多い。もつとも徳島城のように天下泰平になってからあえて隠す必要がなくなつてから、細部にわたり公にしている。それはむしろ壮大豪華な城郭を公表することによって権力者としての威信を示す意図が読みと

れる。

しかし、平島公方のように特殊な家柄の場合、不思議と資料が見付かつていないが、小松島市地藏寺の玄関、書院及び阿波公方民俗資料館所蔵の鬼瓦(玄関と共に地藏寺へ譲渡されたが、同寺から返還されたもの)を見ても建物の壮大さが想像以上のものである。

館の広さは一町四方あったと言いつまみ伝えられ、お屋敷跡、御門前、馬場、お花島等の地名が残っている。この地名を元に見取図を作成してみると南北約八十メートル、東西約百七十メートルもある。これはあくまで大ざっぱな計測だが、その広大さは理解されるだろう。

館跡に土盛りしたような小丘があり、公方一族の墓地となっている。四代義次(又八郎)室、

五代義景(又次郎)室、寿貞尼(七代義武弟義人室)などの墓もある。

小松島市地藏寺の玄関は平島館から移転したものである。実に広壮でどっしりした構え、天井は見上げるばかりに高い。階段はまたぐのに大変なくらいで、女性は別の玄関から出入りしたのである。この玄関へ入つただけで威圧感を覚える。しかも広大な玄関に飾りものらしいものはない。おそろしく端正で清々しい。簡素と省略の中に美を追求したものだ。平島館が正に足利將軍家末裔の武家だからだろう。

方丈の広縁の突き当たりが書院である。これも平島館から移築したものである。武家の書院だけあつてなんの飾りもない質素なものである。黒光りする柱、天井に歴史の重さや公方の精神性が感じられる。

質素な部屋だが、西側あるい

は南側の窓を開けると小さな庭園がある。

歴代公方は、この書院の窓際に小机を置き静かに書見したに違いない。

玄関及び書院は県文化財に指定されている。

阿波公方民俗資料館所蔵の鬼瓦は実にどっしりしたものである。県下でこのように巨大な鬼瓦が残存しているのはきわめて珍しい。中学生の背丈よりも高く、資料館の外庭からガラス窓越しに見学することが出来る。

これだけ重量のある鬼瓦を飾り付けられるには相当頑丈で大規模な建物でなければならぬ。他の平瓦、軒丸瓦などの重さに耐えられないだろう。

蜂須賀家政によって公方家の禄高は茶料百石に削減されたが、やはり阿波入国時三千貫高(九千石〜一万五千石)を領有した当時の公方家の力を理解することが出来るだろう。

(続く)



阿波公方・民俗資料館に展示されている鬼瓦。その大きさは、大人でも見上げるほどです。



書院の窓から望める庭園。



小松島市内にある地藏寺。